へ13
2378
373

東京都立中央図書館

壹之巻

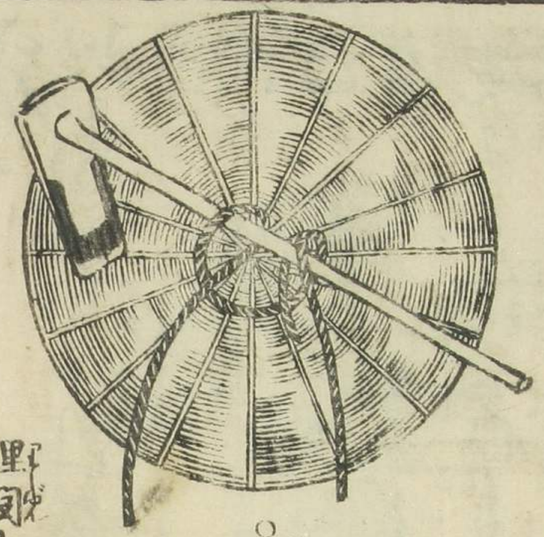
特
遠 19
2378
373

序

此書ハ[illegible]ありて[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
物語ありしが[illegible]
[illegible]の[illegible]をきゝ[illegible]物語りせし[illegible]
[illegible]の[illegible]入りぬ[illegible]
[illegible]人もれきゝ[illegible]
[illegible]人合せ[illegible]
[illegible]

慈雨　百戯園芝翫述

名二鍬ぬ顔



名ハ善人
心ハ悪人

○好事門を出を惡支千里ゆ走ほ揚震が理須ふて神明の罰まぬかるりあ全

四智天知る地知る吾知ほ人知ふ
あり悪を多くの羅の題を知らず
と思ど四ツに知り人ありてつゐに
ハ是ゆ多ち謀計を一旦の

時代蒔絵といふハ東山時代をうてのあら此印籠鎌倉時代の模様ふて八重さくらの紋所優ふやうくつゐれど此紋を付し持主ハ強悪非道と行ひくつのおの身の悪をむくいをるの本文みつまぐらうあり

花に洛の
紙園
向
指
子
志げ

笑くぼ
和歌の
祇園林
文里

西国三十三番谷汲寺 十八

江州浅井郡の高人文藏と
いふ者義濃の国谷汲寺
印籠を落しそのよ
同じく形の印籠をひろひ
ゆり姉背の嬢ゝ
ゆり義とん

續拾遺集 俊成

鞍馬山の麓なる
川原よりそぎ
若くこれ
ほゝも秋や
ちるらむ

○山城の國鞍馬山
僧正が谷牛若丸
背競石とて有り

▲都の妓女これを
祈願して父の
仇を報ぶ

惡兵衛
娘お松
百姓の義濃の国の農民
厚見の鈍九郎
鼠なる
ろ衆
の外や
猫乃意
米山
虎之巻
吉岡鬼一
法眼が
御曹子
牛若丸ふ
傳え申しる
書なり
兵術の
秘蜜ゑ
認さる事ハ
本文ふ詳あり

角ぞ
よは
角乃意よ
羽ぞ
ひろり
晋子
廻国の修行者快了
實ハ熊坂長範が
組下
八栗
八太
左衛門

箱根弁当角
あつまの国
峠
俄雨
堂ふ通
伊吹山の山神
比良ら嶽ふのまる
夢ネ
後日のしるし
水火日

歌の唱歌は義太夫の地声
琴の調子は花洛の文蔵

孫天狗俳諧

全巻二

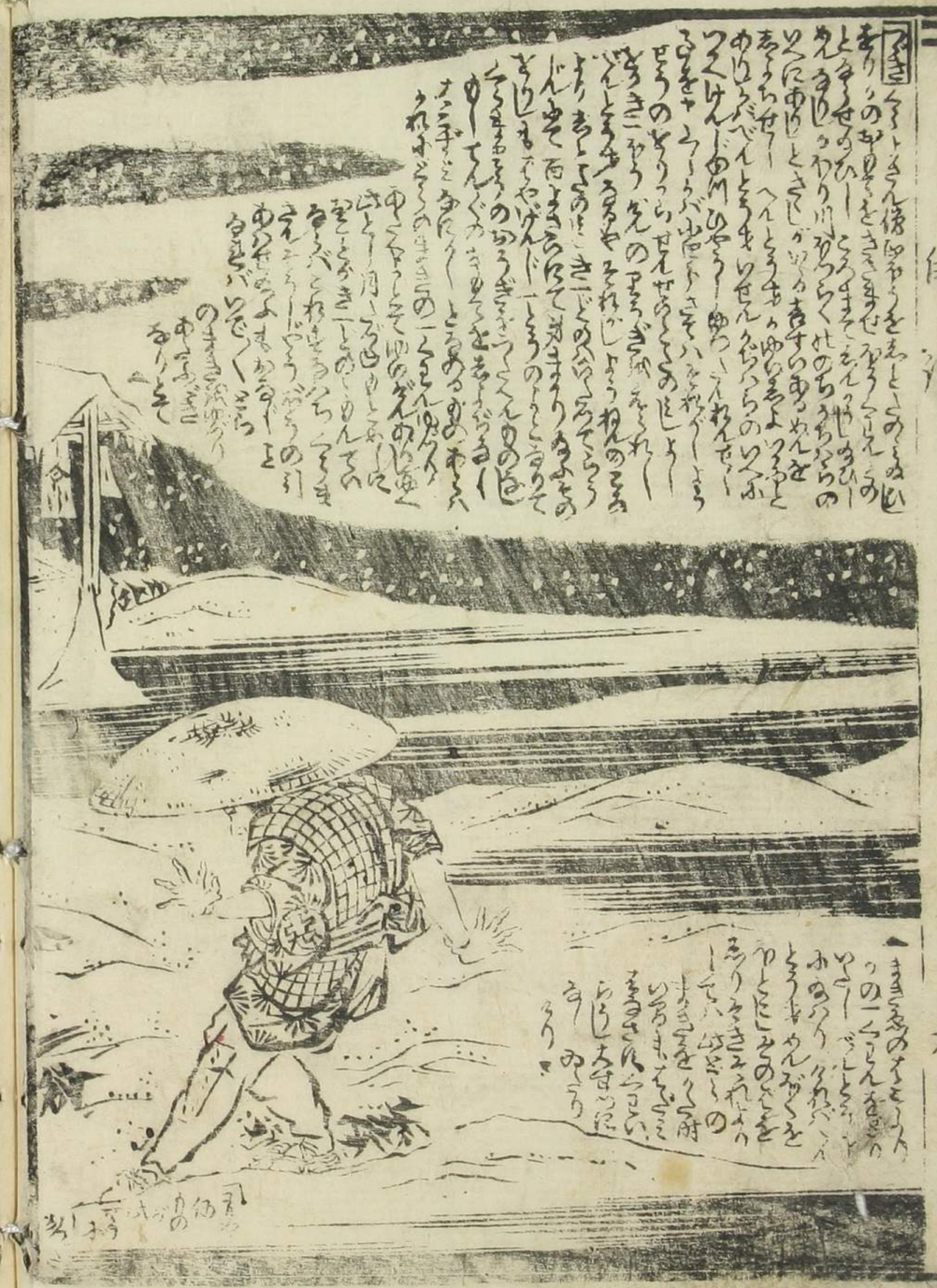
○遊人一のむかし宋の国にあつまりといへる所に [illegible]

[illegible]

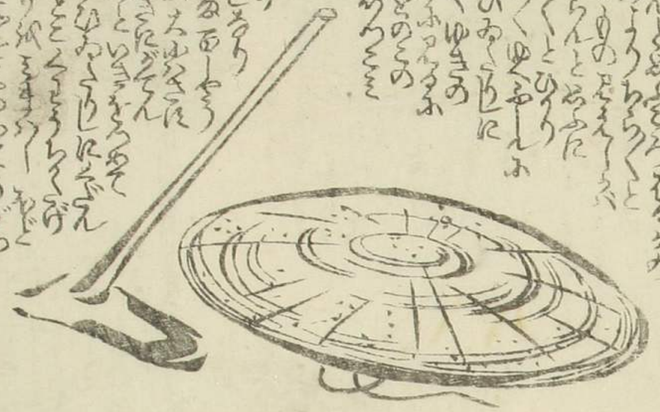
○ぺんとうきるかしとく [illegible]

[illegible]

[illegible]



中村芝翫作
勝川春亭画



毒酒

定
一鬼一法眼相傳
二略之巻
右之ごとくハ悪魔降伏之秘法
月日
江間小四郎利
○さてもすさまじかりしこの
ものの化生のこゝをまのあたりにみるゆゑ
ろうそくをふきけしてくらやみとなれば
ものすごくてこわいこのくらやみ
ものすごくてこわいこのくらやみ
○悪魔降伏のためしとやまいの左ゑ
門のの化生のこゝをまのあたりにみるゆゑ
ろうそくをふきけしてくらやみとなれば
ものすごくてこわいこのくらやみ
ものすごくてこわいこのくらやみ
○ここにまさかあるかたに
あざなるごりやうまのこじく
こびまきるをにてまうらいの
あかんやの文蔵ひとせ

せんだん石

天
地

天
八

中村芝翫作
勝川春亭画
彫工 藤治郎
藤常